



知床科学委員会 しんぶん

ヒグマワーキンググループ

NO.26

知床半島におけるヒグマの管理に関する検討を行うため、「ヒグマワーキンググループ」会議が開催されました（第1回：2023年8月8日、第2回：2023年12月8日）。

会議では、2022年4月から始まった「第2期知床半島ヒグマ管理計画」の進捗状況が報告され、対策やモニタリングの年単位の実施項目を定める「アクションプラン」について議論しました。

TOPIC 1

知床半島におけるヒグマ大量出没年を迎えて

2023年の知床半島では、2012年と2015年の大量出没年を大きく上回る、過去最多の大量出没年となり、捕獲数は184頭、目撃件数は2000件を大きく超えました。

例年よりも早い時期から農作物被害が発生・継続するとともに、8月下旬以降は連日ヒグマが市街地に侵入し、昼夜問わずヒグマが市街地内を徘徊するなど、人身事故が発生しかねない危険な状況が頻発しました。

大量出没が起こった要因として、生息個体数が多く生息密度が高かったこと、晩夏の主要食物であるハイマツの実と秋のミズナラの実、サケ科魚類の遡上数がすべて少なく、深刻な餌不足になったことが影響しています。

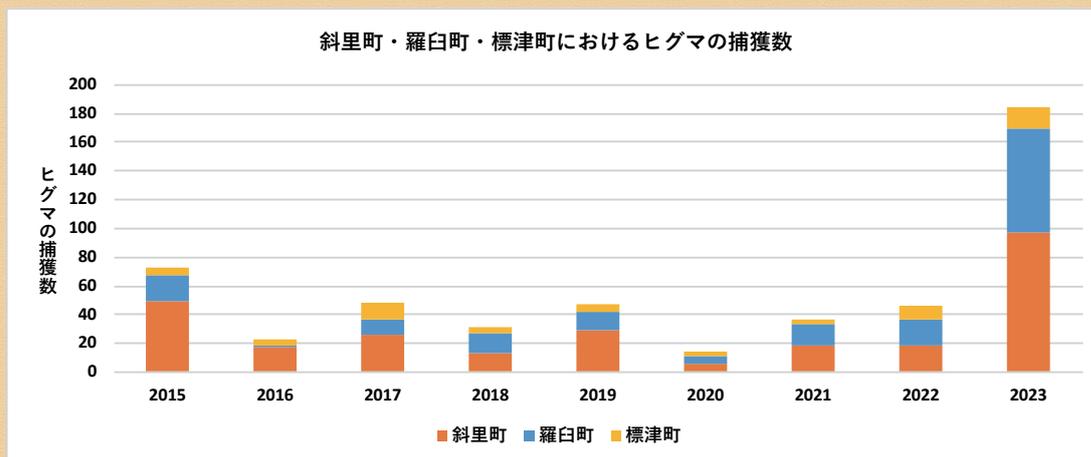
また、市街地の近くに生息している個体だけでなく、市街地から遠いところに生息する個体も餌を求めて農地や市街地へ侵入したことが確認されています。

このような大量出没を受けて、ワーキンググループ会議では、関係機関で実施しているヒグマ管理の今後の方針について、引き続き議論を行っていくことを確認しました。



ヒグマWG資料より：一般提供

ウトロ市街地に出没したヒグマ(10月撮影)



TOPIC 2

地域の取り組み事例

今年は過去最大の市街地侵入が発生しましたが、行政機関、警察、猟友会、知床財団など、地域関係者が連携して対応に当たり、さらには町民のご協力もあって幸いにも人身事故の発生を防ぐことができました。ヒグマによる被害を防ぐために、見通しの悪い場所での草刈りの実施、夜間に干し魚や生ごみを放置しない、ヒグマを目撃したら通報することにご協力をお願いします。



羅臼町提供

↑町内会やクマ活による市街地の草刈り



知床財団提供

↑ヒグマ対策ゴミステーション「とれんべア」



知床財団提供

↑市街地を囲う電気柵



標津町提供

↑児童へのヒグマに関する普及啓発

TOPIC 3

人とヒグマとの適正な距離を

知床世界自然遺産地域には毎年多くの観光客が訪れますが、野生のヒグマに遭遇する機会の多いエリアです。そのため、観察や撮影を目的としてヒグマに不用意に近づく利用者が後を絶たず、深刻な人身事故が発生するおそれが高まっています。

このような状況を踏まえ、2023年10月に知床国立公園管理計画書を改定し、ヒグマとの距離30m未満の「著しい接近」及び距離50m未満の「つきまとい」が自然公園法に基づく規制の対象となりました。環境省ではこの基準に基づき、国立公園利用者への指導を行っていきます。

会議の内容をさらに詳しく知りたい方はこちら

<https://shiretokodata-center.env.go.jp/>

■制作・発行■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階